

疫学・保健統計Ⅱ（分析・評価）

単位数（時間数）：1 単位（15 時間） 必修/選択：選択 履修年次：3 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：非常勤講師・坪田恵

科目担当者（職位・氏名）：

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識と技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：87

■ 授業概要

集団における健康現象の観察や統計処理の基礎となる統計学の主要概念、基礎的理論、統計学的調査法や分析方法について教授する。また、演習を通じ、疫学的調査、疾病頻度や曝露効果の指標による評価方法を理解し、公衆衛生看護活動をエビデンスに基づく活動として立案、評価できる実践能力を養う。

■ 到達目標

1. 年齢調整死亡率の算出方法や有病率・罹患率の計算方法を修得し、地域の健康状態について把握、説明できる。
2. 疫学全般における考え方と計算方法を修得、データの見方、疫学論文の読み方を理解できる。
3. 保健活動計画のデザインを考案できる。

■ 教育内容

疫学

■ キーワード

コホート研究、介入研究、指標の計算方法

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

| 回 | 授業項目 | 授業内容・授業方法 | 担当 |
|---|----------------|--|----|
| 1 | 保健統計，疫学に必要な統計学 | 【講義・演習】（計算機使用） 様々な疾病量（年齢調整、有病率と罹患率），疫学研究に必要な統計学について，演習を通じて学ぶ | 坪田 |
| 2 | 疫学関連指標① | 【講義・演習】（計算機使用） 疫学研究デザインで出てくる各指標とその計算方法について演習を通じて学ぶ | 坪田 |
| 3 | 疫学関連指標② | 【講義・演習】（計算機使用） 疫学研究デザインで出てくる各指標とその計算方法について演習を通じて学ぶ | 坪田 |
| 4 | 疫学研究① | 【講義】 疫学研究デザインからみたバイアス，疫学論文の読み方 | 坪田 |
| 5 | 疫学研究② | 【講義と演習】 コホート研究と症例・対照研究の論文を読み，批判的吟味を行う能力を養う | 坪田 |
| 6 | 疫学・保健統計まとめⅠ | 【演習と発表】（ノートPC使用） ① 実際の自治体データを使い地域の健康状態の現状を把握する ② その地域における具体的な健康問題を抽出し，保健活動計画立案につながる提案発表をおこなう | 坪田 |
| 7 | 疫学・保健統計まとめⅡ | | 坪田 |
| 8 | 疫学・保健統計まとめⅢ | | 坪田 |

■ 履修条件

公衆衛生学、疫学・保健統計 I（基礎的知識）の単位を取得していること

■ 成績評価方法

1～5回 演習レポート（60%）、6～8回 まとめ 参加態度および発表（40%）

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・疑問点はコメントカードに記載すること。コメントカードに書かれた質問等に対して必要に応じて、次回授業時に解説を行う。
- ・レポートのフィードバックは、必要に応じてコメントを付して返却し行う。

■ 教科書

- ・配布資料あり
- ・必要に応じて以下の参考書・参考資料を使用のこと。

■ 参考書・参考資料等

- ・尾島俊之他著（2022）『保健学講座 4 疫学／保健統計 第1版』メヂカルフレンド社
- ・医療情報科学研究所（編集）（2024）『公衆衛生がみえる 2024-2025』メディックメディア
- ・一般財団法人厚生労働統計協会（編集）（2023）『国民衛生の動向 2023/2024』厚生労働統計協会

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・授業では講義のあと、実際の演習を通じて計算方法を身に付けていく。
- ・授業後に90分程度、配付資料を用いて学んだ内容の復習を行い、内容の理解度を確認すること。
- ・自分の地元や実習先の自治体の特徴や自治体での取組に関心を持ち、事前にノートに整理しておくこと。
- ・その他詳細は授業時に提示する。

■ 担当教員からのメッセージ

授業前半は計算機持参のこと。

計算問題、疫学は国家試験の出題範囲になっているので、予習・復習して臨むこと。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

学務課に問い合わせること

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

厚生労働省研究機関勤務時の自治体職員を巻き込んだ実践経験、ならびに大学における疫学・保健統計の授業・現地でも学生実習経験

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容

厚生労働省研究機関勤務時の自治体職員を巻き込んだ実践経験、ならびに大学における疫学・保健統計の授業・実習経験を活かし、現場で地域の現状を把握し、保健活動計画を立案、自ら率先して実践できる専門家としての知識、技能を身に付けられるような双方向の講義、演習を積極的に行っている。